

令和 6 年 9 月 2 日

見附市議会議長 様

見附市議会議員

樺澤 直純

一 般 質 問 通 告 書

下記のとおり質問したいので、会議規則第 6 1 条第 2 項の規定により通告します。

質問事項 (主題を記載してください。議場配布の一覧表に印刷)

【 1 】 これからの学校教育環境について

答弁を求める者 市長・教育長

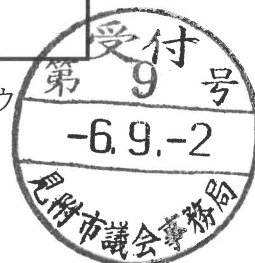
近年おおよそ 10 年ごとに改訂している学習指導要領は、次期が 2026 年改訂・2027 年告示となり、現行では 2016 年改訂・2017 年告示(高等学校は 2017 年改訂・2018 年告示)された学習指導要領に基づいた教育が行われております。幾度も改変が加えられ、学習指導要領が頻繁に改訂される理由として、社会や教育環境が変化し、生徒らが必要とする力や価値観が常に変化しているためです。現代社会を生き抜くためには、それに対応するための能力や視野の広さも必要で、生徒たちの多様な背景や価値観があることも考慮し、社会の多様性を尊重する姿勢が強調されるようになっていきます。現在の教育現場では学校関連での様々な状況に対応できる環境整備もより進めていかなくてはなりません。

以下、いくつか学校教育関連について、お尋ねいたします。

1 中学校部活動の地域移行について

今年度では卓球、ソフトテニス、野球、バレーボール、女子バスケットボールの 5 種目が運動部活動のモデル種目とし、部活動の地域移行の改革推進期間での活動が開始しています。見附市の方針とし、令和 8 年度以降の休日の部活動を行わないとして、今後はその他の種目の拡大と文化系の部活動の地域移行へと活動の形態が変わっていきます。

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイウ



- (1) 今後の令和6年度中、または令和7年度に拡大予定の他の種目や文化系部活動について、現状と予定をお聞かせください。
- (2) 現在、モデル種目として活動している各種目で、この地域移行への説明会や地域スポーツクラブ活動への意向確認等を行われたが、その後の状況等をお聞かせください。

2 市立学校配置等検討委員会について

学校配置等検討委員会は地域の関係者と学校関係者や保護者、公募から選ばれた市民ら18名で構成され、月1回程度の委員会開催により、適正な学校規模や配置などについての議論から、令和7年2月か3月に教育長へ答申を出すことを目指している。第1回は令和6年5月31日、第2回は6月27日、第3回は7月29日、9月下旬に第4回目を開催予定とのことです。

- (1) 第1回検討委員会の開催時から今年度中での開催スケジュールはおおよそ決まり、今後の開催も予定をされているようですが、現在までの進捗状況やそこからの議論、検討委員会で協議された主な内容等について、お聞かせください。
- (2) 令和7年2月か3月に教育長へ答申を出すことを目指しているとあり、第6回開催により令和7年1月に答申案検討とも予定しているが、今までの経過と今後の開催スケジュールからこの時間軸として考えた場合で、総合的なスケジュールの進み具合として、どのように考えているのか、市の見解をお聞かせください。

3 市内唯一の公立高校について

新潟県の統計によると、昭和50年代で約50万人いた県内に住む15歳未満の子ども数と比較すると、現在は半減し少子化に対応するためとして、今年7月に新潟県は「令和7年度~令和9年度 県立高

校等再編整備計画」を発表し、市内に所在する公立高校の見附高校は様々な状況等ありますが、これによると学級数が1学級減少となってしまいます。本来は昨年の3学級から2学級への減少は令和6年度の単年度のみで、令和7年度からは3学級に戻すとしていました。

このことから県教委の発表後、直ちに稲田市長と小泉県議とで情報共有し、新潟県教育長と面談して、同校の地理的優位性と地域にとっての必要な県立高校であることを伝え、3学級に戻していただきたい旨を要望して来られたとお聞きしました。

同校の所在地は本所1丁目、見附駅からもほど近く、特に今年は駅周辺のにぎわいや交流の創出を目的として整備された「ミツケル」がオープンしました。

駅周辺エリアだけではなく市内全域にて、若者である同校生徒はとても大事で街の活気には必要であり、同校の生徒数や学級数の減少は見附市にとって人の流れ等の観点からも様々な損失ともなり非常に重大です。

そして、今後は将来的に高校の在り方として求められるであろう特色化も重要な要素ともなります。

今後の新潟県への働きかけについて、当市の考えをお聞かせください。